

長谷川 望 師

\*イエスは弟子たちに、まもなくいなくなるだけでなく、あなたがたは世に憎まれると預言された。彼らは、これからは自分たちで敵対する人たちに対抗していかなければならない。イエスはその悲しみ、不安、恐れをよく知っておられた。しかし、わたしは**真実**を言います。わたしが去って行くことは、あなたがたの益になるのです。去って行かなければ、あなたがたのところに助け主はおいでになりません。でも、行けば、わたしはあなたがたのところに**助け主**を遣わします。（ヨハネ16：7）「助け主」とは聖霊のことで、14：16～17にあるように、この方はいつまでもあなたがたとともに居るようになる、とイエスはいわれる。

\*この聖霊（御霊、真理の御霊も同じ）の働きは2つある。一つは「イエスについて証をする」ことである。わたしが父のもとから遣わす**助け主**、すなわち、父から出る**真理の御霊**が来るとき、その方がわたしについて証ししてください。（15：26）イエスが弟子たちに話されたことばや教えや、イエスについてのすべてのことを内に宿る聖霊が思い起こさせてくださる、だから、あなた方の心は平安だ、恐れることはない、といわれたのである。

\*もう一つの働きは、「**聖霊はすべての真理に導く**」ことである。具体的には、世の3つの誤りについての**真理**が示される。

1. **罪**について。罪についてというのは、彼らがわたしを信じないからです。（16:9）世の人たちが「罪」というのは、ユダヤ人であれば律法を守らないこと、異邦人であれば、不正、不義など良心に反することを考えたり、行ったりすることであろう。しかし、主イエスは、罪とは**真理**そのものである私を信じないことであると言われる。

2. **義**について。義についてとは、わたしが父のもとに行き、あなたがたがもはやわたしを見なくなるからです。（16:10）この世の「義」は自分を基準とする「義」であるが、本来の義は「**神の義**」すなわち絶対的な義である。イエスが父から来て父のところへ帰ったことによってイエスが神であることがわかるので、イエス・キリストがことばや行いがすべて「**義**」であることがはっきりする。

3. **さばき**について。さばきについてとは、この世を**支配する者がさばかれた**からです。（16:11）この世でさばきをするのは王や皇帝など社会を支配する者である。事実イエスは**大祭司**やローマ皇帝にさばかれて、十字架につくことになる。しかし、神の御子で、全く罪のない方を死刑にしたのだから、実はさばいた者がさばかれたのである。また、最後の審判のときの裁判長は主イエスであることが決まっている。

これらの真理は「**救いの真理**」であり、イエスが天に帰られた後はすべてが聖霊によって明らかにされるのである。

真理を知るために御霊によって歩もう。